

検討委員会で出された意見の概要

[1 : 第 1 回検討委員会, 2 : 第 2 回検討委員会]

1 景観への配慮

(1) シビックプライドとしての景観資源（桜島，錦江湾）

- 1 桜島を抱（いだ）く借景は，唯一無二のもの。鹿児島に住んで良かったなというシビックプライド（県民の誇り）は非常に大きなキーワード。鹿児島に住んで良かったなと思わせるようなエリアであれば，おのずと観光客も集まってくる。
- 1 世界でも稀な，活火山を背景に抱（いだ）く極上のウォーターフロントエリアであることを再認識すべき。ウォーターフロント開発について，世界に多くの成功事例があるが，根底にあるのは地元住民に支持され愛されているということであることをもう一度リマインドすべき。
- 1 景観資源を主軸とした活用という点で，このエリアから眺める桜島と錦江湾という景観は，何物にも代え難い資源。その景観資源を私達が日々の暮らしの中でどう結びつけていくのか，この場所でどう過ごしたいのかということ，1人1人が想像して，ワクワクできるような場所であってほしい。
- 1 県民全体のものとして，ウォーターフロントパークは守る。
- 1 海辺の景観，特に海に親しめる空間を残し，シビックプライドとしての景観を保全した上で，ここの土地利用，まちづくりをどうするかということを考えていく必要がある。
- 1 シビックプライドの観点で，本港区のウォーターフロント地区の価値を，経済効果や収益性のために使い果たしていいのかという議論もすべき。全部使ってしまうのではなく，シビックプライドのために残してお

くことが必要。収益性につながるからと言って100パーセントそこを活用するのは問題あり。次の世代のために景観資源を消費しきらないということも大事な視点。

- 1 今回の検討委員会の最終的なアウトプットであるゾーニングに加えて、デザインをどうするか、空間の整備と保全の方向性をどうするかまでしっかりと議論を進め、市民、県民の方に提示して納得いただくという委員会としての役割があると認識。

(2) 景観（デザイン）マネジメント

- 1 景観を阻害するような高い建物が立つことには否定的だが、新たな総合体育館をこのエリアに設置する意義についても理解できる。ウォーターフロントパークは保全されるということで、景観資源を最大限活かすということを経営に計画の検討の余地はある。
- 1 ウォーターフロントパークは、更に公園としての機能を充実させ、スポーツ・コンベンションセンターと一体的に整備することも必要ではないか。
- 1 景観マネジメントの組織化という点で、自然だけではなく、人やモノがこの場所で作っていく新たな景観というものも、まちの魅力につながっていく中で、デザインの発想というのが不可欠。本港区全体のデザインコントロール、エリアマネジメントが必要なのではないか。
- 1 建物も含めての景観について全体イメージがないといけない。
- 1 （ウォーターフロントパークとスポーツ・コンベンションセンターの）ちょうど間に臨港道路南北ふ頭線があるが、ここのデザインがすごく大事。（ウォーターフロントパークとスポーツ・コンベンションセンターの）どちらからも自然につながるようにすべき。道路のところを本当にきちんとつくらないといけない。逆に言うと、道路を少し変えることも含めて、色々いいデザインにすべき。

- 1 スポーツ・コンベンションセンターは、ボリュームがあり、外側は壁になりがちなので、道路側（ウォーターフロントパーク側）に魅力的な空間をつくるというようなことをあらかじめ考えておかないと、スポーツ・コンベンションセンターとウォーターフロントパークが別々の感じでできてしまうとすごく困るという感じがする。

2 将来の時間軸

- 1 時間軸で言うと、現在と未来という部分で考えるということ。今、我々が良かれと思ってやることが、30年、50年先には、我々は居ない可能性が高い。そうするとやや無責任な話になってしまうかもしれない。
- 1 「eスポーツ」やボルダリングなど新しいスポーツをやり始めているような人達も含めて色々な意見を聞きながら、今、我々がいいと思っていることが30年、50年、継続して使われるような施設を考えたい。
- 1 時間軸と空間軸を広げて議論しないと、納得したコンセンサスは市民、県民の方には得られないのではないかと。
- 2 20年、30年、或いは50年先に向けて、将来に向けての責任ということだと、ここにつくるものというのは、持続可能な形の施設を整備していく必要があり、例えばSDGsであるとか、環境に配慮していくとかいうことは、今、我々ができることとして、しっかり意識して、当然考えるべきことだと思う。

3 中心市街地との連携

- 1 本港区エリアのランドデザインは、鹿児島自身のまちづくりのランドデザインと一体化させ、市もしくは県のまちづくりの全体像の中で、この本港区エリアはどのような位置付けか、もっと大きなランドデザインの中で絵を描いていくことが必要ではないか。

1 人流の回遊性や連動性をいかに持たせるかは非常に重要。天文館から本港区エリアは微妙な距離だが、車での移動ではなく、歩けるまち、自転車での回遊など、回遊性が高まれば高まるほど経済効果は大きくなる。

1 (スポーツ・コンベンションセンターがある本港区側では) たくさんの方が回遊してもらって、天文館の方に流れていくような仕組みを、外とつなぐ仕組みをつくっていくということも必要。

1 ドルフィンポートを中心とした本港区のまちづくりは、本港区エリアでやらなければいけないことと、周りの中心市街地のできることとの役割分担と相乗効果を考える必要がある。

1 アフターコンベンションが大きな魅力であり、天文館は非常に大きな武器になり得る。

2 中心市街地というのは、大きく中央駅と、天文館地区と、ウォーターフロント地区と3つに分かれているので、同じような街をつくっても、回遊は生まれにくい。今、中央駅と天文館地区は、商業という意味ではほぼ競合している。それぞれキャラクターを出した方がいい。

4 公共機能の確保 (港湾や交通など)

1 これだけものが入ってくると、交通の問題はどうしても考えなければならず、公共交通網をどうやって導入していくのかということと、港湾に従事する方々の機能が不全化しないかというようなこともしっかり議論を進めるべき。

2 港湾としての機能を踏まえつつ全体像の検討を行うことを目的とするという基本原則だけは、是非、守っていただきたい。

2 旅客船の事業者が心配しているのは、この大規模な集客施設、例えばスポーツ・コンベンションセンター、またはサッカー等スタジアム、イベントを開催した時に、駐車場は色々計画があるみたいだが、それをほ

とんど車で来た時にどうなるのかを本当に心配している。例えばスポーツ・コンベンションセンター，最大でこれだけの集客が1日ある場合には，どのぐらいの渋滞が発生するかとか，渋滞予測調査だとか交通流動予測調査，こういうのも一度計算を出して欲しい。

2 ああいうところ（住吉町15番街区）に駐車場が本当にいるのか。回遊性の問題から言えば，バスターミナルをつかってシャトルバスを例えば鹿児島中央駅に出して，途中の天文館に駐車場をつくると，本当に回遊性が生まれるのではないか。

2 （北ふ頭の奄美・喜界航路の移転は，）ちゃんと移転する場所を，もしくはターミナルとそれに関係する例えば奄美群島の方々の利便性が本当にこれでいいよと納得できるような計画を先につくってもらいたい。

2 臨港道路を広げていただきたい。臨港道路については，谷山の方から直線的なイメージでは考えていただいたが，なかなかそううまくはいかず，今日に至っているのではないか。その辺りがスムーズになれば，荷役形態も多少近代化し，人手不足を補うような何か新しい荷役体系になるのではないか。

2 港湾物流というものを低く見られている方はいないとは思いますが，そう感じられるような，ちょっと脇に追いやったような計画はやめていただきたい。

2 ウォーターフロントを中心に歩いて来られる距離のFRINGE駐車場（都心部への車の乗り入れを抑制するため，駐車場を都心部の外周に計画的に配置するもの）を検討した方がいい。

5 導入機能・ゾーニング

1 商工会議所自体が，10年後，20年後，30年後，まちづくりをどうすべきかということを当事者意識で外注し，それが12月に完成する予定。

- 1 1 どういった機能が必要かというゾーニングも必要だが、その前にもう一回リマインドし、どんな施設、機能が必要かということも話をしていくべき。展示場も含めてそういったものも考えていけないといけないし、市民、県民の目線の中でのアミューズメント施設や、景観を大事にする場所というのをどう確保するかという話も必要。場合によっては、道路の付け替えや、港湾計画の変更についても、10年、20年、30年という時間軸の中で考え、それを踏まえてゾーニングすべき。
- 2 2 本港区だけではなく、しっかりとゾーンを捉えて検討していくのは必要。周辺の施設も含めてエリア全体で流動とか集客とかを考えていくことによって、本港区の評価とか価値が上がっていく。民間の資金も入れていくのだとすると、経済的に価値を高めるといえるのはすごく大事なことで、この周辺を一体的に考えていく必要がある。
- 2 2 スポーツとか文化とか芸術とかいうものの社会的価値を考えると、その効果は有効なコンテンツとして考えられる。健康というようなことで、良い影響もあると思うので、例えば子供の教育とか、才能を伸ばすとか、そういった地域を育てるといえるような観点でもゾーニングをしていくということが大事。
- 2 2 ウォーターフロントも中心市街地なので、県民が望んでいるのは、都会的なフィーリングを持った港町というのを望んでいるんだろうと思う。
- 2 2 商工会議所がつくられた「鹿児島市中心市街地及びウォーターフロントを中心としたまちづくりビジョンに関わる提言」は、良くできた優れた提言書である。中心市街地から本港区にかけての領域を魅力ある場所にしていくためのゾーニングというところからスタートしているので、それが本来の姿。鹿児島を俯瞰して将来ビジョンを描くところからまちづくりが始まり、そこに必要な機能、ふさわしい施設というものが描かれていくというのが順番。

6 観光

- 1 クルーズ船を受け入れる体制が何もできていない。
- 1 クルーズ船が入るマリンポートにふさわしい国際観光都市を（本港区に）つくらないといけない。
- 2 桜島があるというだけではシビックプライドというのはなかなか醸成されづらく、外の方が鹿児島はすごいね、桜島はきれいだよねと言ってくれて初めてシビックプライドになっていくようなところもあるので、その意味では、外からのお客様を取っていくというような考え方はあっていいのではないか。
- 2 MICEは非常に激戦区。MICEを取っていくに当たって大切なことは2つ。1つはハードとして整備をしていくということ。もう一つの軸になるのが観光という考え方。鹿児島の魅力とは何なのか、観光資源とは何なのかというところを、しっかり見据えていく必要がある。
- 2 鹿児島は非常にポテンシャルがある。他と差別化できるところでいうと1つは自然。景色を見るというだけではちょっと無理なので、紹介したいのがアドベンチャーツーリズム（欧米の富裕層で意識の高い人達が、自然の中でアクティビティを楽しみながら、自己変革など自分も向上させていきたいというような考え方）。シビックプライドを醸成するためには、リスペクトをしてもらうような観光を考えていく。ターゲットをいくつか絞りつつ、良いお客様を取っていくという考え方も重要。
- 2 鹿児島の基幹産業は、農漁業を中心にして栄える。外貨を稼ぐ場所をちゃんとつくる。日本一の牛、或いは黒豚、カンパチ、そういうものを活かして、観光地で利用できる拠点が無い。バラバラにあちこちあるかもしれないが、拠点をつくる必要がある。本港区の中に、そういった鹿児島の産物を活かす、観光客を呼べる場所をつくっていただきたい。

2 今からの観光のキーワードは、「近説遠来」。天文館の観光客に聞くと、地元の人が行く店に行きたいという声があることから、地元の人を大事にしながら、自分の街がいい街だよと思っていただけのような街をつくる。

2 観光戦略みたいなものを立てていく時に、近年、非常に重要視されてきているのは、住民の意向。特に、観光で先進的な。観光で食べているような地域とか国になると、住民の意向というようなところが必ず入ってくるようになった。

7 県民の参画

1 県民の参画という点で、（スポーツ・コンベンションセンターの）計画において、事前に商業施設やイベントでパネル展示して情報提供したり、この会議においても、当初の傍聴人数を増やしたり、ネットで配信したりするなど、幅広く周知しようとしている県の姿勢が感じられる。

1 情報を得て興味や関心を持った方々が自身の意見を例えばネット上で発信して県に伝える、他の方がどういう考え方を持っているかということを知ることができるという仕組みが必要なのではないか。幅広い意見を集約することで、参画の意識も高まり、充実した議論につながるのではないか。

8 サッカー等スタジアム

1 （市としては、）天文館など中心市街地の活性化を図るため、中央駅から本港区エリアまで歩いて楽しめるまちづくりを進めるとともに、中心市街地のみならず県全体への経済波及効果をもたらすため、スタジアムの整備に向けた検討を進めている。

1 （市としては、）スタジアムは、スポーツを通じたまちづくりを進める上で核となる大変重要な施設であると考えている。

- 1 (市としては,) 日常的に市民や観光客など多くの人で賑わう多機能複合型のスタジアムは, グランドデザインの開発コンセプトと整合するものと考えている。
- 1 市が考えているJ2の試合のためのサッカー場をウォーターフロントにつくるのは, 将来的にあまり必要がない。
- 1 ウォーターフロントの県有地に, 市が税金を使ってサッカー場をつくる時に, 市の検討委員会で(ウォーターフロントの)3ヶ所が決まったということを, 県の検討委員会で発言しても何の意味もない。
県もそういう場を設けること自体, 変ではないか。委員の方に錯覚させると思う。
- 1 ウォーターフロントにサッカー場をつくるのが, 県や県民にとって, どれだけメリットがあるかということを示して始めて納得がいく。市の検討委員会で(ウォーターフロントの)3ヶ所が正当化される中で, 県の検討委員会で説明をすること自体が納得いかない。
- 1 市の色々なアイデアは, アリーナ(スポーツ・コンベンションセンター)でも十分できることが多いので, アリーナでやってもらう。サッカー等スタジアムがここにあるというのは, 市民にウォーターフロントを開放するという考えからすると随分違う。
- 2 今日現在, 対象となっているユナイテッドは, 一部の株主によるもので, 本当に市民の球団とかになっていない。その時は基本的に, 受益者負担というものが原則になるのではないか。
- 2 市は, 3ヶ所のうちの1ヶ所を決めて, 議会も通して, パブリックコメントも取って, 市の行政庁としての判断の中で, 県に正式に申し入れるべきことではないか。
- 2 市が出した経済効果は, 商売人の世界で言うとなんの経済効果でもない。サッカー場がプロフィットセンターだという前提条件が虚構である。

9 スポーツ・コンベンションセンター

(1) 開かれた施設, 施設のデザインなど, 本港区エリアにふさわしい施設整備

- 1 スポーツ・コンベンションセンターは、本来の主旨である会議場とスポーツ振興に全力投球してもらうことが、第1優先事項。
- 1 スポーツ・コンベンションセンターは、ボリュームがあり、外側は壁になりがちなので、道路側（ウォーターフロントパーク側）に魅力的な空間をつくるというようなことをあらかじめ考えておかないと、スポーツ・コンベンションセンターとウォーターフロントパークが別々の感じできてしまうとすごく困るという感じがする。【再掲】
- 1 PFIは値段と運営とデザインが一緒に決まる。デザインは大事だが、一回PFIで決めると、なかなか変えられない。デザインを決める仕組みと、その後の運営とを分けて考える必要があるのではないか。
- 1 「eスポーツ」やボルダリングなど新しいスポーツをやり始めているような人達も含めて色々な意見を聞きながら、今、我々がいいと思っていることが30年、50年継続して使われるような施設を考えたい。【再掲】

(2) 機能, 規模・構成

- 1 (スポーツ・コンベンションセンターの)コンベンション機能の方は、MICEで言うのであれば、MとIとCだと思う。一般的に学会とか会議と言われるもの。中途半端な施設をつくるのが一番まずい。スペックにこだわる必要あり。
- 1 スポーツ・コンベンションセンターでできるのは開会式と閉会式と基調講演ぐらいで、全部のコンベンション機能がここでできるわけではないと思っている。展示場も含めてそういったものも考えていかないといけない。

- 2 この体育館だけでコンベンションの機能をやるというのは不可能であり、むしろ体育館の予算を少し削ってでも、もう一つコンベンションをいずれつくるということを考えていくべき。軸足としては体育館はアスリートファースト、コンベンションはコマーシャルファーストということを考えて、次にどういうものが必要か、景観はきちんと担保できるか、港湾に従事されている方々の交通機能などに大きな障害はないかということを考えていって、持続的な協議の場を持つておくべき。

(3) 配置計画

- 1 体育館は、住吉地区にずらせば済む話ではないか。
- 1 ドルフィンポート跡地のスポ・コン（会議所内では体育館プラスアルファと呼称）については、会議所の構想に前提として入っている。
- 1 体育館整備の委員会に参加し、場所については、できるだけ都市に近いところがふさわしいということまでは決まった。体育館の委員会の中では、だいたいあの辺りということまでは決められるが、次はやはりまちづくりの主体となっていくまちで集う人達、働く人達、活かす人達という中で議論していかないと決められないと思っており、この委員会が今回ある意味ではそこだと思っている。
- 2 旅客船の事業者が心配しているのは、この大規模な集客施設、例えばスポーツ・コンベンションセンター、またはサッカー等スタジアム、イベントを開催した時に、駐車場は色々計画があるみたいだが、それをほとんど車で来た時にどうなるのかを本当に心配している。例えばスポーツ・コンベンションセンター、最大でこれだけの集客が1日ある場合には、どのぐらいの渋滞が発生するかとか、渋滞予測調査だとか交通流動予測調査、こういうのも一度計算を出して欲しい。【再掲】
- 2 ああいうところ（住吉町15番街区）に駐車場が本当にいるのか。回遊性の問題から言えば、バスターミナルをつくってシャトルバスを例えば鹿児島中央駅に出して、途中の天文館に駐車場をつくると、本当に回遊

性が生まれるのではないか。【再掲】

(4) 運営・管理

- 1] スポーツ施設については、コストセンターからプロフィットセンターに変えるため、施設の稼働率を上げる必要がある。世界のスポーツ施設を軸にしたまちの再開発は、ほぼ例外なくプロスポーツチームのホームタウンとして活かしており、鹿児島もそれは例外ではない。

- 1] コンベンションは競争相手があり、必ず誘致コストがかかるので、そこをできるだけ抑える必要あり。

- 2] 県体育館は、コストセンター。県民全員が受益者で、だから税金でつくるのが当たり前。

- 2] P F Iにすると、（多目的利用による交流拠点機能としての）3割を、できれば4割、5割、6割にしたいと商業的なものを持っていくというのに流れ過ぎてしまわないか。そこで金額を考えれば、（スポーツ振興の拠点機能としての）施設はあまりいいものがないだろうとっていて、P F Iで本当にいいのかという疑問は正直言っている。